

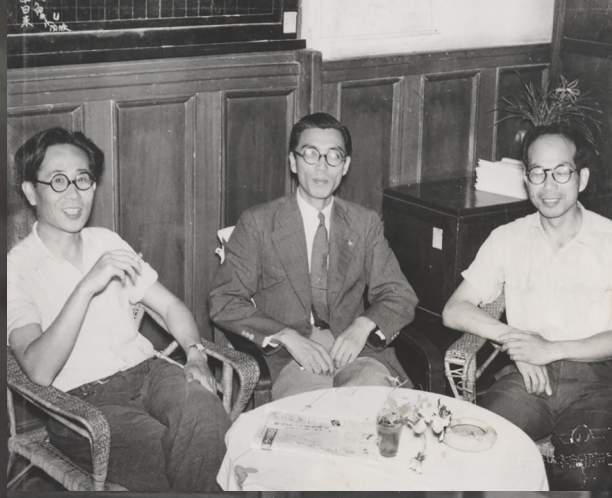



糸賀一雄のことば展

今から約80年前、第2次世界大戦を終えて日本の国土は荒れ果てていました。戦争で親を亡くした子どもたちは食べる場所や寝る場所を探し、町をうろついていました。そんな、誰もが生きるために精一杯だった頃、戦災孤児や障害のある子どもたちのために生涯をかけて力を尽くした人物がいました。日本の福祉に革命を起こした「糸賀一雄」です。

京都帝国大学(現・京都大学)を卒業後、滋賀県庁で要職を歴任していた糸賀は、1946年(昭和21年)に、戦災孤児や障害のある子など、行き場のない子どもたちが安心して住める施設「近江学園」を池田太郎、田村一二とともに滋賀県に創設しました。
日本で障害者に対する理解が乏しかった当時、それは画期的なことでした。
糸賀は園児の年長化・成人化、そして重度・重症化に伴ってそれに必要な多くの施設を創設していきました。

それら実践の中で糸賀は「この子らを世の光に」という思想に至ります。障害の有無にかかわらず、ともに生きることのできる社会こそが豊かな社会であるという糸賀の思いは、現在の日本の福祉に今も息づいています。

糸賀は福祉への強い思いから、多くの示唆に富んだ言葉を残しています。今年は糸賀らがつくった近江学園が創立から80年を迎えます。
糸賀の思想や取組を新しい目で見直し、次代に引き継ぐ取組を進めるため設立された財団も今年で30年を迎えます。

この節目に、糸賀の残した言葉にふれることで、すべての人が等しく持っている尊厳の輝きを尊重しあいながら誰もが安心して暮らせる共生社会について、改めて考えるきっかけとしていただけると幸いです。

展示期間 令和8年10月24日(土)
～令和8年11月25日(水)まで
各日10:00～20:00

展示場所 滋賀県情報発信拠点「ここ滋賀」店舗内
東京都中央区日本橋2丁目7−1
東京メトロ・都営地下鉄 「日本橋駅」B6、B8出口すぐ
JR 東京駅：八重洲北口・日本橋口　徒歩6分



主催 公益財団法人 糸賀一雄記念財団
滋賀県草津市笠山七丁目8番138号　TEL 077-567-1707